

令和5年度 県立つくばサイエンス高等学校自己評価表

目指す学校像	科学技術に関する探究活動を通して、次世代の科学技術と社会を担う志を持つ人財を育成する学校 大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術の担い手として、未来を切り開く人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心を持ち、未来を創る志のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
	1 学習指導の充実	① ICT 機器を活用し、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ② 長期休業中の課外を円滑に実施し、生徒の進路実現に資する学力の向上を図る。 ③ 実践的な学習を通して、大学入試に必要な思考力・判断力・表現力を強化する。	B
	2 進路意識の高揚と進路希望の実現	④ 科学国際セミナー等により専門領域の学習内容を理解し、進路意識の高揚を図る。 ⑤ 生徒の科学的好奇心を育むため、大学・研究機関との連携を具体的に構築する。 ⑥ 総合型選抜入試を見据えた探究活動の環境を整備し、進路指導体制の確立に努める。	B
	3 特別活動等の充実・発展	⑦ 生徒による特別活動への積極的な参加を通して、生徒が主役になる特別活動を充実させる。 ⑧ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びを振り返り、キャリア形成の手助けを行い、生徒の自己実現につなげる。	B
	4 働き方改革	⑨ 教職員の働き方に関する意識改革を行い、超過勤務時間の削減を図る。 ⑩ 定時退勤日の設定、年次休暇、特別休暇の取得を推進する。	B
	5 授業改善の推進	⑪ 生徒の授業満足度を4点満点中、全教科平均3.3以上にする。 ⑫ 授業改善に向け、研究授業の開催、他校視察、相互授業参観、校内研修等を推進する。	A

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	国語的教養及び語彙を広げ、深める	課題を充実させ家庭での学習習慣の獲得を目指し、高校生としての国語的教養を身につけさせる。①②	A	B ・基礎的な漢字だけでなく、より実用的な漢字・語彙の習得を目指しつつ、多角的な視野で文章に触れる工夫をする。
		「NIIENIE 蟬」から、新聞に出てくる漢字を習得させる。①②③	C	
	文章の内容を理解する能力を養う	一般的な語句や言葉の意味を知り、語彙力を向上させる。①③	B	
		文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。①③	B	
	自己表現力を養う	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じて文章で表現させる。①③	A	
	時事問題からの考察力及び社会に対する関心を養う	「NIIENIE 蟬」の新聞記事やコラムから時事問題について考察させる。①③④	B	
		他者の視点や考え方を知り、それらを自分の考えに反映させる。③	B	
	授業満足度の向上	振り返りを通して、生徒の理解度を適切に見取る。④⑤	A	
教科指導 (数学科)	数学的な基礎力の確立	ICT の活用により学習を効率化させるとともに、課外授業を充実させることで、大学の理工系学部進学の基礎となる知識や技能を定着・向上させる。①②	B	B ・生徒の実態を踏まえ、大学入学に求められる資質・能力の育成と、基礎学力の養成を両立する。 ・授業と家庭学習に連続性を持たせ、生徒に望ましい学習サイクルを確立させる。 ・引き続き授業改善に努め、生徒の探究心を向上させるための具体案を模索する。
		習熟度別授業の実施や ICT の活用によって個別最適学習を促進することで、生徒の特性に即した形で数学的な基礎力を確立させる。①③	A	
	高度な思考力・判断力・表現力の育成	発展的な内容を扱うことで、大学の理工系学部求められる高度な数学的思考力や判断力、課題解決力を身に付けさせる。②③	B	
		協働的な学びを促進することで、他者との対話を通して自身の知識や考えを正確かつ明確に伝える数学的表現力を身に付けさせる。②③	A	
	数学への興味関心の深化	教科横断的な学びを促進することで、物理や化学、工学などの科学分野と数学との関連性を理解させ、興味関心を高める。②③	B	
		探究的な学びを促進することで、日常生活と数学との関連性を主体的に見出す姿勢や課題発見力を身に付けさせる。②③	B	
	授業改善サイクルの確立	教員研修を充実させるとともに、授業アンケートを定期的実施することで、教師と生徒の双方向のやりとりによる授業改善サイクルを確立する。①②④⑤⑥⑦	B	
教科指導 (地歴・公民科)	学習への動機付け	ICT 機器を活用し、個々の学習状況に合わせて問題に取り組ませることで、基礎学力の定着や学習に取り組む意欲的な態度を育てる。①②③④	B	B ・課題をやる生徒とやらない生徒に分かれてしまっているため、やらない生徒へのアプローチが課題である。
		授業内容を社会問題や時事問題へとつなげて、実生活と関連して学習できるよう工夫する。①③	A	
	学力の向上	授業内容を生徒の理解度に合わせて精選し、学力が定着するよう促す。①②	B	
		基礎的な学力の定着はもちろん、応用問題にも対応できるよう力を身につけさせる。③	B	
	公民としての資質を養う	討論や感想文など意見交換を活性化し、常識ある社会人としての規範意識や道徳心を養う。③④	A	
		選挙権年齢の引き下げを踏まえ、議会傍聴などの取り組みを通して良識ある公民としての自覚を持たせる。⑦	B	
	進学指導の充実	総合型選抜入試や小論文指導など、学年や進路指導部とも連携して行い進学率向上を目指す。⑥	B	
	授業改善の推進	各授業でタブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、わかる授業を展開する。①②	B	

別紙様式 2 (高)

教科指導 (理科)	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で学ぶ新しい知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるようにする。また、大学入試に対応できるようにしていく。①③	A	A	次年度も理科学習、科学的思考力の基本となる、観察や実験の充実、考察する力などが育成できるよう、工夫改善していく。
		主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法が身に付けられるようにする。①③	B		
	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実を通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力などが育成できるようにする。①③	A		
	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	授業プリントや問題集等の活用を通して、生徒個々人が取り組み方を調整したりできるようにする。①⑪	A		
	授業改善の推進	I C Tや外部のコンテンツを活用する。⑪⑫	A		
		前年度までに蓄積した授業や実験のプリントを改善し、理科教員間で共有する。⑪⑫	B		
教科指導 (英語科)	学力の獲得・定着・向上を図る	各学年・教科で基本的な語彙数を増やし、文法力を養う。学習した表現を使った活動を通し、4技能の伸長を目指す。小テストなどで確認し定着を図る。①③⑪⑫	B	B	新学年クラス編成の話し合いや模試対策・英検対策課外への時間確保等が課題と考える。また週末課題の取り組み状況の改善方法を模索する必要がある。
		資格試験等を進めるとともに、対策課外を実施する。②③	B		
	国際的な事柄に関心を持つ態度を育て、国際人としての視野を養う	ALT との Team teaching 等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。①⑫	A		
		外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、グローバルなコミュニケーション能力の基礎を培う。③	B		
	ICT の活用をする	タブレットを活用して、課題提出や小テストの実施・評価をする。①③	A		
教科指導 (保健体育科)	基礎体力の向上	基礎体力の重要性を理解させ、体力を高める運動を実践する。③	A	A	・基礎体力および集団行動は社会生活を送るうえで必要不可欠な要素であるため、次年度も継続して課題とする。 ・運動技能の習得によりスポーツをより楽しめるよう育成する。 ・自らの健康問題を改善する行動をとれる生徒を育成する。
	運動技能の向上	各単元の基本的な運動技能について能力に合わせた指導を行う。⑪	A		
		ゲームを通じて身につけた運動技能を向上させる。③⑪	A		
	健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。③	B		
		健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。③	B		
	授業改善の推進	参加する生徒全員が活発に活動できるように、生徒の実態に合わせた指導を行う。⑪	A		
教科指導 (芸術・美術)	学習指導の充実	生徒の興味・関心に沿った題材設定と、実態に合わせた指導を行う。③	A	B	生徒の実態や興味・関心に即した題材を取り扱うことはできたものの、創造的な視点や積極性の向上につな
		創造的な表現や物事の造形的な見方・考え方を身につけさせる。③⑥	B		
	進路指導の充実	学校や学級に愛着を持てるような制作活動や展示を行う。③⑦	B		
		作品制作において、言語活動を通して改善や向上の意識を育てる。③⑥	A		

別紙様式 2（高）

	特別活動の充実	自己分析と課題発見の場とするために、公募展やコンクールに積極的に参加させる。③	B		がったかと考えると疑問が残る。次年度も課題として継続的な指導に努めたい。
		他者の視点に立って考える機会を設け、公共の精神を養う。③⑦	A		
	授業改善	ICTを積極的に取り入れ、課題回収や成績処理の効率化を図る。①⑨	B		
		生徒の学習環境を整え、授業や部活動をより効率的に実施する。③⑦⑨	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (科学技術科)	学力の育成	授業・実習を通した ICT の活用、デジタルコンテンツ等の有効活用①	B	B	・授業・実習を欠席した生徒や課題未提出者のフォローアップを定期的に行う。
		授業・実習または探究活動を通した知識・技術の定着③	B		
	学習活動の改善	授業・実習を通した課題解決型学習の実践①③	B		
		授業・実習を通した教科横断的な学びの充実①③	B		
	外部連携の推進	大学、研究機関、関連企業との連携④⑤⑥	B		
		科学国際セミナーなど校内外での研修・研究活動を通した見聞の拡大④⑤⑥	A		
	授業改善の推進	授業満足度向上のため、授業アンケートの積極的活用⑪	B		
		ICT を活用しての授業改善実施⑪⑫	B		
校務分掌 (教務部)	入学希望者の確保	学校説明会の企画・運営（研究企画部との連携）⑦	C	B	・学校説明会において連携が不十分であった。次年度は話し合いの場を多く設け、説明会の充実を図る。 ・定時退勤日の周知に努める。
	学校運営の円滑	定期考査・特編授業の時間割や年間、月間行事予定表の作成	A		
		教科用図書、副教材、教具等の準備	B		
	公募・表簿等の作成、整理	学校要覧、指導要録等の作成・管理	B		
		出席簿、学級名簿の作成・管理	A		
	働き方改革の推進	定時退勤日を設定し、各先生方への周知徹底と推進⑨	C		
校務分掌 (進路指導部)	学習指導の充実	外部模試の実施・4 回／年	B	B	進学指導に向けたつくばサイエンス高校としての、3 年間のシステムを構築する。
		長期休業中の課外の実施	B		
	進路意識の高揚	大学見学会を通して、進学意識を醸成する	B		
		オープンキャンパスへの積極的な参加	B		
	特別活動等の充実	科学技術部を中心に、研究発表を促進させる	B		
		科学国際セミナーを通して、研究意欲を醸成する	A		
	働き方改革	業務軽減を目指し、外部業者の積極的活用	B		
		Google drive を活用しての進路情報の公開	A		
校務分掌 (生徒指導部)	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。	B	B	・社会の学校のルールに対する関心や生徒・保護者の価値観の多様化の中で、頭髪や服装、マナーなどの指導において、教員間の連携強化と情報共有を徹底した生徒指導体制の確立が課題である。 ・新制服の業者との連携を密にし、アフターフォロー等を図りたい。
		各種講演会を実施し、事件や事故に関する注意喚起と予防を図る。⑦	A		
		校内・外の巡回を定期的に行い、生徒の問題行動・交通事故の未然に防止に努める。	B		
		学期ごとに自転車点検を実施し、登録番号・施錠の確認をすることで盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。	A		
		バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。	B		
	高校生さわやかマナーアップの実践	挨拶指導を通して生徒と教員間の関係性を深め、マナー向上に努める。	B		
		長期休業明けに服装頭髪指導を実施して、クラス経営と担任・副担任と生徒間の交流を深めながらマナー向上を目指す。	B		
	マナー・モラルの向上と校内外の連携	服装・頭髪の改善等について保護者に通知するとともに、年次団との連携をとりながら指導内容の充実を図る。	B		
		校内職員と連携を図り、PTA 総会・三者面談等において保護者への協力を依頼しながら生徒に無理のない指導を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練・講話を実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。	B	B	安全な学校作りには、ハード面の修繕が求められるため限りがあるが、可能な改善はできた。環境の整備は新校開校に伴う物品補充等、十分に対応できた。健康作りや教育相談に関しては計画通り実施することができた。次年度も今年度のように取り組みたい。
		防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、安全点検により学校施設・環境の安全確保に努める。	A		
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握し、自らの健康を管理する能力を養う。	A		
		「健康だより」の発行。	A		
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別・軽量化を推進する。	B		
		清掃用具の点検・充実をはかる。	B		
校務分掌 (図書視聴覚部)	図書及び図書の利用の促進	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの外部関連機関と協力し、保護者と密に連絡を取りながら支援活動にあたる。	B	B	いかに図書館にあしを運んでもらうかが課題である。図書便りは図書委員の生徒が協力してくれるが、月初めに発行できるようにしたい。classroom にあげることで生徒の目に触れやすくなった。また放送委員の生徒達に学校行事等で機器のセッティングや活用できるよう指導したい。
		広報誌（ビアルームプレス）を定期的に発行する。	B		
		購入希望図書については積極的な募集を行い、短期間で新刊を図書館に並べる。①	A		
	委員会活動の活性化	リクエストボックスを設置し、生徒に親しまれ役に立つ蔵書の充実を図る。①②	B		
		図書便り（尚友・おすすめ本）を発行し、生徒が図書館へ足を運ぶきっかけをつくる。①③	A		
	放送室の整備	図書の貸し出しや蔵書の管理業務を習熟させ、主体的に委員会活動が行えるように指導する。また研修などに参加して、他校と情報を共有する。⑦⑩	A		
校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実	学校行事での放送機器のセッティングや操作を習熟させ、主体的に行えるよう指導する。⑦	B	B	各学年の生徒と一緒に活動できる放課後の時間が週1回しかない為、活動する時間の確保が課題となる。
		放送室が有効に使用されるようにする。⑦	B		
		生徒を主体とした学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑦	A		
	ホームルーム活動の推進	ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑦	A		
		生徒評議員会を通し、生徒の意識を高め委員会の活性化を図る。⑦	B		
		「キャリアパスポート」を活用し、生徒の自己実現につなげる⑧	B		
校務分掌 (渉外部)	生徒会活動の推進	委員会活動を活発化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑦	B	B	・PTA に入会しない保護者が増える傾向にある。その原因等を調べ、今後のPTA活動に活かす。
		働き方改革の推進	A		
	PTA活動の活性化	特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、適切な役割分担と業務の効率化により教職員の負担を軽減する。⑨	A		
		PTA総会への保護者の積極的参加。	B		
	保護者との連携強化と事業の継続を図る	広報活動の積極的実施。	B		
		PTA会員との密な意見交換により共通理解を図る。	B		
校務分掌 (渉外部)	PTA組織の充実	研修旅行及び研修活動の充実。	B	B	
		PTA会員同士の連携により情報共有を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (情報管理部)	I C T を利用した授業の推進	I C T 機器、コンピュータの整備、システムの活用に関する研修会を行う。①②⑨⑪	B	B	・推奨端末が変更されるため、生徒の個人端末・教員用端末の管理方法の整備を行う。 ・各科、領域で整備された情報機器やライセンスの情報を集約し、管理方法を整備する。
		職員の I C T スキルアップを促進する。①②⑨⑪	B		
	公式サイトによる情報公開の推進	公式サイトの作成を各部署に分散し、サイトを組織的に運営する。	B		
		公式サイトの更新回数を増やし、情報公開に努める。	B		
	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営と活用ができるように計画し実施する。①②⑨	B		
校務分掌 (研究企画部)	科学的素養の育成	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①②⑨⑪	B	B	・計画通りに進められないことがあったので、事前に各署と連携しながら進めたい。
		個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。	B		
	広報活動（入学生の確保）	各種連携（産学・中高・高大）の連絡・調整・企画・実施、科学技術講演会の企画・実施 総合的な探究の時間の充実 ④⑤⑥	A		
		学校 PR、ハイスクールガイド、学校パンフレットの作成等 ⑦⑨ 学校説明会・公開授業等関連行事の企画実施（教務部と連携）、STP の実施 ⑨	B B		
年次指導 (第 1 年次)	基本的生活習慣の確立	生徒がつくばサイエンス 1 期生として自らを律し、自覚を持った生活を送るよう指導する。 ③⑥⑦⑪	B	B	生徒の意識改善、学習習慣の定着の面で課題が残る。キャリア形成に関わる現段階での基礎的な能力形成のための活動を強化していきたい。年次職員同士の情報共有や作業分担などを見直し、より密な連携を目指したい。
		学習習慣の定着	B		
	キャリア形成のための素地の確立	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、「Classi」や「スタディーサポート」を活用し、学習習慣の定着を図る。①③ 「進研模試」をはじめとした学習目標を生徒に提示し、学習への継続的な意欲を喚起する。②③ タブレット端末の利用促進に務める。①⑦	A B		
		社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施する。③⑤⑦⑧ 「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑧	B B		
	授業改善と効率化	年次団での連携を密にとり、業務の効率化と ICT 化を図る。⑨⑩⑫	A		
		相互に授業参観・研究を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑪⑫	B		

※ 評価規準：A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足